帰雲城の黄金６０億
円をあきらめた矢口隼人の記録より
１　聞取り調査編
無料試し読み編

矢口　隼人

帰雲城の黄金６０億円をあきらめた矢口隼人の記録より １ 聞取り調査編 無料試し読み編

無料試し読み編

岐阜県は、白川郷にあった帰雲城の埋っている場所を調査する矢口隼人は、いまだ物証を得られずにいた。世界遺産のある白川村で聞き取り調査をし始めると、思いもしなかった証言を老人から聞くこととなった。古老だけが代々語り継がれてきた伝説の黄金６０億円のありかを知っていた。「あなたは、まだ誰も知らない帰雲城の真相を目にすることになる」帰雲城をベースに歴史作家、矢口隼人が直球で挑んだフィクション歴史ミステリー小説＜架空のストーリー＞第一作

帰雲城の黄金６０億円をあきらめた矢口隼人の記録より　１　聞取り調査編

矢口隼人

語り
白川村の小谷老人から聞いた帰雲（かえりくも）城の歴史背景をお話しいたします。

序章　歴史の真実
＜　省略　＞
時に、１５８５年天正１３年８月に、羽柴秀吉の命で越前国大野城主金森軍が飛騨攻めをおこないます。飛騨の入口である牧戸村付近は激戦地となります。金森軍は２手に分かれて向牧戸城を攻めるのですが、尾上郷川から侵攻した金森長近軍は岩瀬村の岩瀬橋で帰雲城の尾上隊に阻まれ手痛い敗北で後退します。もう一方の新渕村から侵攻した金森可重軍が岩瀬村で合戦して多くの死傷者が出ます。
金森軍は向牧戸城を落城してから、中野村照蓮寺を素通りして、帰雲城を落として、つぎに荻町城を撃滅して、城内の者全てを皆殺しにしました。ここに帰雲城は亡びたのです。そして、天正１３年１１月２９日、天正大地震があり保木脇村の帰雲城のあった場所が埋ってしまったのです。

ここに帰雲城辺りにあった黄金６０億円が人知れず埋もれました。これが、小谷老人から聞いた帰雲城の歴史背景であります。

「世界遺産がある白川村にまだ人知れず言い伝えが残っていたなんて」

本章　白川村へ葬儀に参列
白川村の田代会長の葬儀に参列した。この田代さんは、帰雲城に深く関って城跡が発掘されるよう願っていた古老の一人であった。お寺の境内の脇でわたしがいると、遠くで「遺言で黄金はどうするの？」って話が聞こえてきたのであった。わたしは、遺産の揉め事？でも黄金て、どう

いうことと思った。

困難な聞取り　口を閉ざす村人

矢口：帰雲城を調べています、矢口といいます、お話を聞いてもよろしいでしょうか。

小谷：あなたはかえりくも（帰雲）の何を知りたいのかね。

矢口：帰雲城の埋っている場所を探しています。

小谷：どうせ、黄金が目当てだろう。

矢口：帰雲城のあった場所を導き出して地震で埋った多くの霊の冥福を祈りたいのです。

小谷：ほんとに黄金目当てじゃないんかね。

矢口：調査することが目的でやっています。

小谷：そうか、あなたが知っている帰雲は本当は全然違うぞ。

情に深い村人たち

小谷：帰雲が攻撃されて滅んだあとに供養碑が建てられたが、地震で供養碑が埋ったで、もう一度痛恨碑を建てたと聞いている。

矢口：帰雲って地震で滅んだんじゃないですか。

小谷：地震で内嶋様は滅んでない。金森にやられたんや。

矢口：帰雲城の資料では天正の大地震で城主内嶋一族が埋ったっていうことですけど。

小谷：確かに地震で保木脇の場所は埋ったわ。そのときは誰も住んでおらんかった。

＜　省略　＞

矢口：そうだったんですか。金森軍に攻撃されて帰雲城は落城したのですか。

小谷：うーん、これは言いたくない。

矢口：わかりました。では、みなさんが興味ある話ですけど、内嶋氏は砂金を持っていたんでしょうか。

小谷：あっただろうな。

矢口：でも、金森軍が帰雲を攻めて砂金を全部持っていったんでしょうね。

現地をこの目でみる

僕は保木脇に立ち長靴を履いて田代プラント南を目指した。堂ノ上の地に立ち、通称カエル池と呼ばれる場所から東に下りて低い地形を南に歩いた。この場所に弓ケ洞谷からの水を引いて流していたと考えられるだろうか。ここのいびつな凹凸の地形は何だろうか。あてもなくただ、堂ノ上をさ迷って、身体が感じるままに任せた。

世界遺産荻町合掌造り集落を眺める

荻町城址から、世界遺産荻町合掌造り集落を眺める。ここからの眺めは相変わらず、テレビ中継される画と同じですばらしいながめである。秘境白川郷。

平瀬温泉で宿泊

平瀬の夕日屋旅館に到着。女将にあいさつをして早速、露天風呂に入る。夕方とあってまだ明るく、露天風呂の温泉からあの、帰雲山中腹の崩壊面がみえるのである。なんてぜいたくな時間を過ごしているのだろうか。部屋に戻りくつろぐ。

浮かびあがる真実

矢口：そうだったんですか。でも黄金は本当はまだ半分以上残っていたんですね。

小谷：知らん。あんた、何が言いたいんだね。

＜　省略　＞

矢口：帰雲城の物証の手掛りがないでしょうか。

小谷：そういえば昔、田代プラント南で岩の間から陶器の欠片があったそうやぞ。

矢口：今でも陶器の欠片があるのですか。

＜　省略　＞

矢口：ところで、横穴に埋っている黄金を明らかにしてはいけないんでしょうか。

小谷：・・・・・。　　黄金は掘ったらいかん、そのままにしないかん。

祟りの前ぶれ

矢口：ところで近くを掘ったら古銭が２枚出てきました。

小谷：そうか、ちゃんと手合わせてきたか。

矢口：あ、わすれました。

気配を感じる

南へ進み茂みに崩れた斜面がある「あっ」、崩れた斜面となだらかな斜面の傾斜が違う。崩れた斜面先端部に石が倒れているように思える。「これっ」、これか。

祟りの原因

矢口：痛恨碑を南に行ったところの斜面に横穴が埋っているのですね。

小谷：・・・・・。　　あんた、そっとしといてやれ。

矢口：僕もどうしたらよいのか迷っています。

＜　省略　＞

小谷：あー、そういえば聞いたことあるな。昔、庄九郎が横穴から金の壺を一つ盗んで、金森にばれて殺されたそうや。

＜　省略　＞

矢口：プラントの北や南は現在も手付かずですけど、なんで手加えないのですか。

小谷：あそこは、祟りがあるで誰も手つけんのや。

家で資料を調べていると、白川郷の帰雲が書いてある民話伝承、民謡が気になった。なかでも古代神（尽）の民謡の歌詞をよく調べてみると、何やら数字が隠れているようだ。

民話、民謡の真意

矢口：白川郷の民謡古大神の４番に「足が６本ある、はねが４枚ござる」は、横穴までの距離という意味じゃないのですか。

＜　省略　＞

矢口：小谷さんのように詳しい人はいないみたいですよ。

小谷：今の６０～７０歳では知らんかもしれんな。わしも曾おじいさんから聞いたことやで、もう９３やで先が長ないわ。

伝承があきらかに

小谷：おれが聞いとるのは、天生、野谷、池ノ谷、六厩、落部、上滝金山の６つや。

矢口：内嶋が６ヶ所で砂金を採っていたのですか。

＜　省略　＞

矢口：内嶋はほかにも砂金をどこかに保管していたのですか。

むなしさのなかのドライブ

矢口：あそこにある風穴に砂金が隠してあるのじゃないですか。

小谷：あるかも知れんな。あそこは奥が深いそうやけど。

＜　省略　＞

小谷：ほんで、何かわかったかね。

矢口：文献に書いてあることがどうも本当は違うということがみえてきました。そして、小谷さんにお聞きして、それが分かりました。

＜　省略　＞

小谷：ところであんたは、黄金は探さんのかね。

矢口：将来もし横穴を掘ったら、幾らぐらいかかるのですか。

元気がない

矢口：きもんって何ですか。

小谷：痛恨碑の鬼門（北東）に白山神社が祀ったる。あんたは、鬼門から痛恨碑に歩いてったんや。

ほんとうに探したかったもの

矢口：場所とか、物に想い入れがあるみたいです。

小谷：金は欲しくないんか。